

○豊岡市内の沿川での浸水被害発生に備えて、豊岡排水機場と八条揚排水機場のポンプを操作・運転し、**総排水量186.5万 m^3 の内水**を排除しました。

- ・豊岡排水機場では、平成29年10月22日12時～24日3時にかけて、**総排水量129.3万 m^3 の内水**を排除。
- ・八条揚排水機場では、平成29年10月22日18時～23日10時にかけて、**総排水量57.2万 m^3 の内水**を排除。

■豊岡排水機場及び八条揚排水機場の位置・全景



■支川(戸牧川及び大磯川)の水位低減効果

今回のポンプの稼働により、**合計総排水量186.5万 m^3 の内水**を排出し、戸牧川の水位が**約3.5m低下**、大磯川の水位が**約3.3m低下**、浸水面積が**約426ha**、浸水家屋が**約4,900戸減少**。

豊岡排水機場の運転効果

ポンプ操作を行わなかった場合の
想定水位 T.P.+4.8



八条揚排水機場の運転効果

ポンプ操作を行わなかった場合の
想定水位 T.P.+4.8



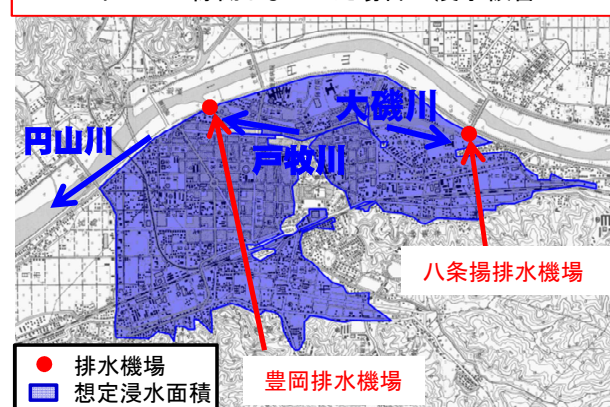
■豊岡排水機場及び八条揚排水機場の役割

- 豊岡市街地における内水対策事業として、戸牧川の水を排水する豊岡排水機場は昭和42年に4.0 m^3/s ポンプ3台で、大磯川の水を排水する八条揚排水機場は昭和53年に5.0 m^3/s (揚排水兼用)ポンプ1台にて運用を開始しました。
 - 豊岡排水機場は、平成22年に旧施設を廃止し、ポンプ7.5 m^3/s を2台擁する、**合計排水能力15.0 m^3/s** の排水機場として現在に至っています。
 - 八条揚排水機場は、平成13年度にポンプ5.0 m^3/s (排水専用)を1台増設し、**合計排水能力10.0 m^3/s** (揚水は5.0 m^3/s)の揚排水機場として現在に至っています。
- 八条揚排水機場は完成からすでに**30年以上経過**しています。

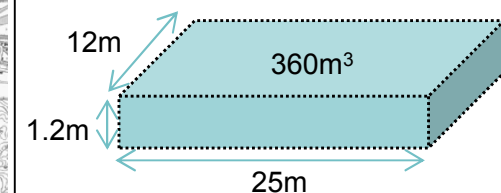
豊岡排水機場と八条揚排水機場は、円山川洪水の戸牧川及び大磯川への逆流を防止するとともに、戸牧川及び大磯川の流水を円山川へ排水することで、豊岡市内の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。

※八条揚排水機場は、大磯川は流れが緩やかで水が滞留しやすいため、定期的に円山川本川の水を汲み上げ(揚水運転)、戸牧川(豊岡排水機場)より排出することで水を循環させ、水質の悪化を防ぐ役割もあります。

ポンプが稼働しなかった場合の浸水被害



合計総排水量 **186.5万 m^3** = **25mプール**
= **5,181杯分**



※速報値であり、今後変わる場合があります。